

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価報告書

平成26年度事業の評価結果

平成27年12月17日

安芸太田町教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
学校教育課	
1 教育総務費	
(1) 学校の概要及び教育施策(評価無し)	3 頁
(2) 教育委員会運営事業(評価無し)	4 頁
(3) 教育委員会事務局運営事業	
A L T (外国語指導助手)活用事業	7 頁
(4) 人権教育総合推進地域事業(県委託事業)加計中学校区	8 頁
(5) 連携教育推進事業	10 頁
(6) 加計高校を育てる会事業	11 頁
(7) 奨学金貸付事業	12 頁
2 小学校費・中学校費	
(1) 小学校管理事業・中学校管理事業(評価無し)	13 頁
(2) 小学校教育振興事業・中学校教育振興事業	16 頁
(3) 就学援助事業	18 頁
(4) 「山・海・島」体験活動ひろしま全権展開プロジェクト(県費事業)	19 頁
3 寄宿舍管理費	
(1) 寄宿舍管理運営事業	20 頁
4 幼稚園費	
(1) 幼稚園管理事業	21 頁
5 保健体育費	
(1) 共同調理場費	23 頁
6 学校適正配置について	25 頁
生涯学習課	
1 社会教育費	
(1) 社会教育総務管理事業	29 頁
(2) 社会教育施設管理事業(評価無し)	30 頁
(3) 町村史管理事業(評価無し)	30 頁
(4) 文化財保護管理事業	30 頁
(5) 生涯学習推進事業	31 頁
(6) 図書館運営事業	39 頁
(7) 放課後子ども教室	41 頁
2 保健体育総務費	
(1) 保健体育総務管理事業	42 頁
(2) 体育施設管理事業(評価無し)	45 頁
(3) 社会体育振興事業	47 頁

はじめに

1. 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。

安芸太田町教育委員会では、事務・事業の点検を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化の実現、コスト削減を進めるために、評価し、仕事の再点検・再確認を行うとともに、厳しい財政状況における効果的な町民サービスを実現させ、効率的な教育行政の推進に資するよう努めます。

2. 安芸太田町教育委員会点検・評価の方法

評価は各事業等について、行政内部による評価を行います。

その後、社会教育委員会議（外部委員）に諮り、議会への提出、ホームページで公表します。

また公表により町民の皆さんからいただく意見、要望も参考にし、今後の事業計画に反映していきます。以上の工程を毎年繰り返すことで、事業の改善を進めよりよい教育行政の運営に努めます。

3. 実施の方法

評価について

（1）評価の対象とする事業

事業評価をする項目は、安芸太田町主要施策の成果に関する調書をベースに評価します。

ただし、予算のほとんどが事務費や管理費である場合は、評価しません。

評価する年度で終了・廃止となる事業についても、すべて評価対象となります。

（2）事業評価における評価者（記入者）

事業評価は事業予算担当者が評価者となります。

（3）事業の評価

ア 必要性

現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。

イ 有効性

施策や運営方針、町で策定した長期総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。

ウ 経済・効率性

事業のコストがかかりすぎていないか、最小の経費で最大の効果を発揮しているか、無駄がないかなど、経済性の面から評価します。

また、事務状況の評価し、併せて目標の設定水準が適切かどうかも検討します。

エ 評価

事業の各評価項目を勘案し、外部評価委員の評価と意見の聞き取りを行います。

評価のランク

A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

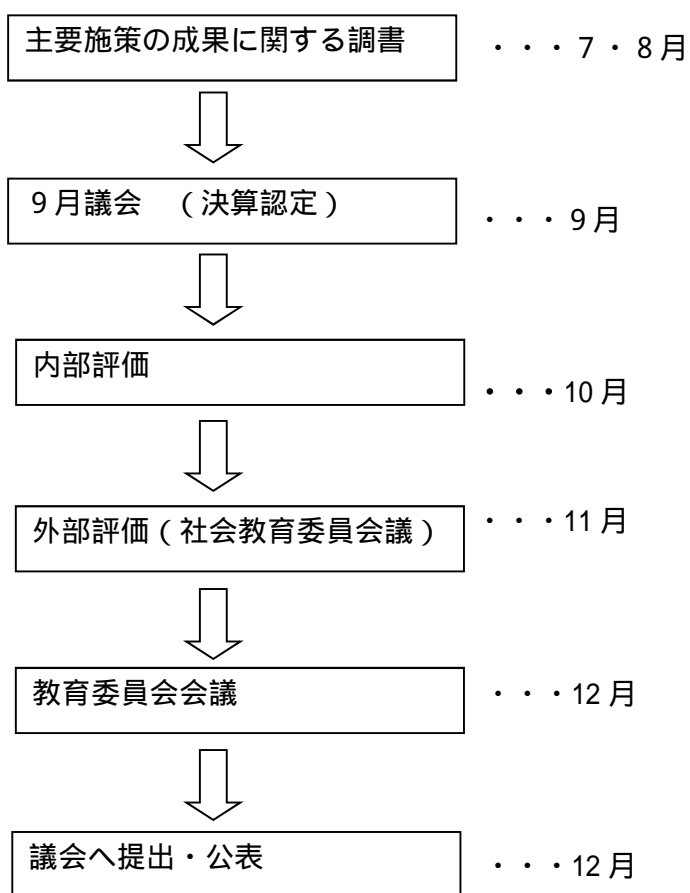
(4) 事業の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるかを選択します。

(5) 評価結果の公表

公表に際しては、議会へ提出し町ホームページに掲載します。

実施フロー



教育委員会 学校教育課

「安芸太田町教育 21 もみじプラン」推進のため、教育目標を「地球・世界的規模の視野を持ち、世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」として、学校教育・社会教育が協力する中で、総合的な教育力向上に向けた事業展開を図った。

1 教育総務費

(1) 学校の概要及び教育施策

小学校は、児童数 210 名で昨年度と比べて 23 名減、学級数は 1 増（特別支援学級）であった。

中学校は、生徒数 137 名で 29 名の減、学級数は増減なしとなった。（通常の学級 1 減、特別支援学級 1 増による。）

平成 24 年度からの継続事業で県委託事業として「人権教育総合推進事業」を取り入れ、人権教育を柱に自己有用感・他者理解といった自尊感情や人間関係づくり・表現力を育成するため、加計中学校区を中心に町内全幼小中学校へ人権教育の取組を展開した。

次世代科学者育成プログラムとして、本町独自で日本技術士会中国本部、及び広島工業大学と提携し、将来の科学の発展に寄与する人材育成につながるものとして「安芸太田町科学アカデミー」を開催した。

小学校 5 年と中学校 2 年を対象とした「広島県基礎・基本学力定着状況調査」では、小学校理科で県平均を下回ったものの、小学校国語・算数、中学校のすべての教科で県平均を上回り、基礎的・基本的な学力の定着が見られた。

外国語活動では、外国語指導助手 2 名体制で、小学校では外国語活動、中学校では外国語科（英語）の指導を充実させた。

学校規模適正配置推進については、修道小・津浪小・加計小の統合が決定した。他地区においてもできるだけ早期に合意が得られるよう取り組みを進めている。

加計高校を育てる会の補助事業として、引き続き進路対策講座や総合的学習支援、公営塾を実施し進学率や就職率の向上を図った。

学校別児童・生徒数及び教職員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）

小学校

（単位：人）

	修道	加計	津浪	殿賀	筒賀	上殿	戸河内	合計
学級数	3	8(2)	3	3	5(2)	3	6	31(4)
1 年生	2	9	2	3	4	3	8	31
2 年生	1	11	1	3	3	4	8	31
3 年生	1	15	2	3	3	1	7	32
4 年生	2	15	1	4	5	2	7	36
5 年生	2	13	3	4	6	2	13	43
6 年生	1	13	1	1	3	-	18	37
計	9	76	10	18	24	12	61	210
学校長	1	1	1	1	1	1	1	7
教 頭	1	1	1	1	1	1	1	7
教 諭	2	8	2	2	4	2	7	27
養護教諭	1	1	1	1	1	1	1	7
事務職員	1	1	0	1	1	1	1	6

栄養士(教諭)	0	1	0	0	1	0	1	3
給食調理員	0	6(3)	0	0	2	0	2	10(3)
計	6	19(3)	5	6	11	6	14	67(3)

学級数の()は、うち特別支援学級数。 給食調理員の()は、うち臨時職員数。

中学校 d (単位:人)

区分	加計	筒賀	戸河内	合計
学級数	5(2)	4(2)	3	12(4)
1年生	20	1	14	35
2年生	27	9	19	55
3年生	21	3	23	47
計	68	13	56	137
学校長	1	1	1	3
教頭	1	1	1	3
教諭	11	7	8	26
養護教諭	1	1	1	3
事務職員	1	1	1	3
栄養士(教諭)	0	0	0	0
給食調理員	0	0	1(1)	1(1)
舎監	0	0	1	1
計	15	11	14(1)	40(1)

学級数の()は、特別支援学級数。 給食調理員の()は、うち臨時職員数。

(2) 教育委員会運営事業

教育委員の状況

氏名	現在の役職(H27.3.31現在)	備考
大江 眞	教育委員長	
清胤 祐子	委員長職務代理者	
正山 幸夫	委員	
河野 義文	委員	
二見 吉康	教育長	

教育委員会の会議等開催状況

月	議事内容	備考
4	安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について 安芸太田町立図書館協議会委員の委嘱について 平成26年度安芸太田町教育21・もみじプラン(案) 平成26年度教育委員会事務局事務分掌について 生涯学習課行事予定について	教育長

	<p>広島県西部教育事務所芸北支所学校教育推進基本方針 安芸太田町人権教育総合推進事業について 服務規律の厳正確保について 教職員の勤務時間の適正管理について その他</p>	報告	
5	<p>安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について 安芸太田町立図書館協議会委員の委嘱について 生涯学習課行事予定について 平成26年度定期訪問・学校訪問について 平成26年度人事異動の概要について 服務規律の厳正確保について 平成27年度広島県・広島市公立学校教員採用候補者試験等について 平成26年度山県郡教育委員会連絡協議会第1回定例会の開催について 学校適正配置基本方針について その他</p>		
6	<p>安芸太田町教育委員会教育委員長の選出について 安芸太田町学校教職員等の自家用車の公務使用に関する取扱要領の一部改正について 学校適正配置について 生涯学習課行事予定について 教職員の年齢分布について 「基礎・基本」定着状況調査について 服務規律の厳正確保について 平成26年度安芸太田町教育委員訪問について 平成26年度広島県女性教育委員グループ総会並びに第1回研修会の開催について その他</p>	教育長報告	
7	<p>安芸太田町就学指導委員会規則の一部改正について 生涯学習課行事予定について 「山・海・島」体験活動について 安芸太田町科学アカデミーについて 服務規律の厳正確保について 平成26年度山県郡教育委員会連絡協議会第1回研修会について 平成26年度安芸太田町教育委員訪問について その他</p>		
8	<p>平成27年度使用小学校教科用図書の採択について 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について 1学年1学級規模の県立高等学校(全日制)における県外からの生徒受け入れについて</p>		

	生涯学習課行事予定について 服務規律の厳正確保について 平成26年度市町村教育委員会研究協議会の開催について その他	
9	生涯学習課行事予定について 平成26年度全国学力・学習状況調査及び広島県の「基礎・基本」定着状況調査の結果について 平成25年度の広島県における生徒指導上の諸問題の状況について(概要) 服務規律の厳正確保について 職員のボランティア休暇の取得について 平成26年度広島県教育委員会教育委員研修会の開催について その他	
10	安芸太田町学校適正配置について その他	10/3
	安芸太田町学校適正配置について その他	10/8
	安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について 安芸太田町立図書館協議会委員の委嘱について 安芸太田町文化財保護審議会委員の任命について 安芸太田町スポーツ推進委員の委嘱について 幼稚園教育の在り方について 「安芸太田町学校適正配置基本方針」の一部修正について 安芸太田町いじめ防止基本方針について 生涯学習課行事予定について 加計高校と町内学校との連携について 服務規律の厳正確保について 平成26年度西部教育事務所芸北支所管内市町教育委員会委員長・教育長合同会議の開催について 安芸太田町立学校の研究公開について 学校へ行こう週間について その他	10/22
11	生涯学習課行事予定について 第53回広島県造形教育研究大会(芸北大会)について 服務規律の厳正確保について 広島県公立学校教職員人事異動方針について これからの就学前教育のありかたについて その他	
12	安芸太田町社会教育委員の委嘱について 安芸太田町教育委員会補正予算について 生涯学習課行事予定について 文部科学大臣表彰について	

教育長報告

	服務規律の厳正確保について 平成26年度確定交渉結果について その他	
1	安芸太田東小学校（仮称）の施工について その他	1/15
	生涯学習課行事予定について 広島版「学びの革新」アクション・プランについて 平成26年度広島県学力調査報告書について 服務規律の厳正確保について その他	1/26
2	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価報告書 生涯学習課行事予定について 特別の教科である道徳について 服務規律の厳正確保について 平成26年度卒業証書授与式及び平成27年度入学式の適正な実施及び実施状況に関する報告について 平成26年度卒業証書授与式及び平成27年度入学式における教育委員会告辞者について その他	
3	第二次安芸太田町長期総合計画 安芸太田町教育委員会予算について 生涯学習課行事予定について 生徒指導に係る特別な指導について 平成27年度児童生徒数及び学級数の見込みについて 服務規律の厳正確保について 平成26年度安芸太田町教職員（管理職）退職辞令交付式の開催について 平成27年度安芸太田町教職員辞令交付式について その他	3/2
	県費負担教職員の任免その他の進退の内申について 平成27年度入園式・入学式の列席について その他	3/16

会議等

ア 教育委員 会議	16回
イ 教育委員 学校訪問・研究公開訪問（10校1園）	12日
ウ 町内学校長会（定期・臨時）	13回

（3）教育委員会事務局運営事業

・ALT（外国語指導助手）活用事業

事業の目的内容

児童・生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の育成と国際理解を深め、英語能力の向上を目指す。

引き続きJETプログラムによるALTを2名配置とし、各小学校では外国語活

動、中学校では外国語科（英語）の指導を充実させた。

全小中学校へ毎週（小学校週1回、中学校週2回）訪問し、指導を継続的に実施した。

また、幼稚園にも訪問し、幼いころから英語に親しむ機会を設け、幼稚園教育の充実を図ることができた。

事業の成果と課題

A L Tの継続的雇用により、児童・生徒にコミュニケーション能力や国際感覚が高まるなどの成果が表れた。

小学校における「外国語活動」の充実と、英語科におけるコミュニケーション力の育成が図られた。

中学校においては、英語科の授業のみならず、芸北地区の英語暗唱大会で入賞し県大会に出場するなど、A L Tの熱心な指導により成果が表れてきた。

歳出決算額（A L T報酬・費用弁償） 7,778,940 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	A L Tの中学校における積極的な活用と小学校での英語学習に向けた教職員の小中連携が必要である。			
外部評価	B	評価委員意見	A L Tの継続指導により、幼児・児童・生徒の英語能力の向上がみられる。国際交流の面でも意義深いことであり、子ども達の外国語力向上に役立っており効果は、事業費以上のものがある。	
事業の方向性	さらに重点化する	現状のまま継続する	見直しのうえ、継続する	事業の縮小を検討する
		休止、廃止を検討する	単年度で終了	

（４）人権教育総合推進地域事業（県委託事業）加計中学校区

事業の目的内容

調査研究のテーマを「安芸太田町教育ビジョンプロジェクト26『豊かな心をはぐくむ教育の創造』～『自分を大切に、他人を大切にして共に生きる』つなげる教育の推進から～」とし、自己有用感・他者理解といった自尊感情や人間関係づくり・表現力等の課題から人権教育を推進していく必要があると考え「学びの創造」と「心の育成」に取り組んだ。

『安芸太田町人権教育総合推進会議「A」』（安芸太田町全体）を町内校長会に位置付け、毎月の定期開催による進捗状況及び取組の確認を町内全小中学校で行った。

また、町内の研究組織を有効につなげ「学びの創造プロジェクト」「心の育成プロジェクト」「小中合同プロジェクト」により人権教育の推進を図った。

事業の成果と課題
ア 成果

自己有用感について

小学校 他の人(友だち, 家の人, 先生)のよさを認め, そこから学ぶことができる。				中学校 他の人(友だち, 家の人, 先生)のよさを認め, そこから学ぶことができる。			
	H24	H25	H26		H24	H25	H26
とてもよくあてはまる	83%	63%	83%	とてもよくあてはまる	80%	39%	87%
よくあてはまる		23%		よくあてはまる		36%	
すこしあてはまる	11%	10%	13%	すこしあてはまる	14%	22%	14%
あまりあてはまらない	4%	2%	3%	あまりあてはまらない	5%	3%	0%
ほとんどあてはまらない	1%	2%	2%	ほとんどあてはまらない	2%	0%	0%
まったくあてはまらない	0%	0%	0%	まったくあてはまらない	0%	0%	0%

「他の人のよさを認め、そこから学ぶことができる」という設問については、小学校4校のアンケート結果では2年前と変わらず高い数値を維持していることがわかる。一方、中学校のアンケート結果はよくあてはまる以上と答えた生徒が7ポイント上昇している。これは人と関わり合いながら学ぶ学習スタイルが定着してきた成果と考えられる。

小学校 友だちは、努力したことを認めてくれる。				中学校 友だちは、努力したことを認めてくれる。			
	H24	H25	H26		H24	H25	H26
とてもよくあてはまる	74%	54%	74%	とてもよくあてはまる	69%	30%	75%
よくあてはまる		21%		よくあてはまる	48%	42%	42%
すこしあてはまる	14%	17%	12%	すこしあてはまる	20%	18%	17%
あまりあてはまらない	6%	5%	5%	あまりあてはまらない	6%	5%	6%
ほとんどあてはまらない	3%	2%	3%	ほとんどあてはまらない	3%	4%	2%
まったくあてはまらない	3%	1%	6%	まったくあてはまらない	2%	1%	0%

「友だちは、努力したことを認めてくれる」という設問については、小学校4校のアンケート結果では2年前よりも向上させることができているが、中学校のアンケート結果はよくあてはまる以上と答えた生徒が6ポイント上昇している。このことは自己存在感を高め、学習や生活への意欲とつながっている。

イ 課題・対策

小学校 自分にはよいところがあると思う。	H24			H25			H26		
とてもよくあてはまる	30%	67%	44%	15%	13%	28%	38%	30%	37%
よくあてはまる	69%	12%	72%						
すこしあてはまる	18%	12%	17%	39%	34%	46%			
あまりあてはまらない	4%	7%	6%	9%	11%	14%			
ほとんどあてはまらない	3%	1%	2%	6%	7%	3%			
まったくあてはまらない	5%	1%	4%	8%	5%	2%			

中学生の「自分にはよいところがある」は 37%と自己肯定感に課題が見られる。2年前と比較しても向上しておらず、取組を見直していく必要がある。

この研究指定は平成 26 年度で終了するが、引き続き効果のあった各プロジェクトは継承しつつ「自己有用感」の向上とともに、気づいたことを行動化していくことができるよう、授業で学んだことを児童会活動など学校生活の他の場面で生かしたり、登下校や家庭、地域での活動に生かしたりする取り組みを進めていきたい。

歳出決算額 1,504,265 円（県委託費 840,000 円）

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	児童生徒の自己有用感を高める日々の取組が、小中とも定着しつつある。（平成 26 年度で委託事業期間終了）			
外部評価	B	評価委員意見	学校生活等で気づいたことを行動化していく取組とともに、地域を含めての教育力・人権意識の向上にさらに取り組むことを望む。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

（5）連携教育推進事業

事業の目的内容

小学校又は中学校間及び中学校区ごとの小小連携や小中連携といった児童・生徒・教職員を含めた学校間の交流、教育振興を目的とする。

事業の成果

本町で進める連携教育の目的達成のためにキャンプ、社会見学、合宿といった合

同教育への講師謝礼や児童生徒の移動等に予算を充て、より効率的な推進を図った。

歳出決算額 2,576,633 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	町内で長いスパンで子どもたちを育てるという統一性にもつながっている。			
外部評価	B	評価委員意見	これからも町内の学校での様々な連携を図って欲しい。小規模校にとって、大変有効な事業で継続して欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

（6）加計高校を育てる会事業

・教育支援事業

事業の目的

本町唯一の高等学校である、県立加計高等学校の特色ある学校教育推進と、県立高等学校再編整備基本計画に基づく、統廃合の対象校である加計高等学校の存続を目指し、教育支援事業に要する経費に対し補助金を交付する。

教育支援事業：進路対策講座、総合的学習時間支援、中高連携事業、クラブ活動支援、社会人講話・芸術鑑賞

事業の成果

加計高等学校への地元進学率が、県立高等学校再編整備基本計画に基づく他の統廃合の対象校に比べ、高いレベルで推移している。（地元生入学率 89%）

また、毎年ライフル射撃の全国大会に出場しており、平成 26 年第 69 回国民体育大会ライフル射撃競技に 3 名が出場している。

歳出決算額 2,090,000 円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない

	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	平成 27 年度からの全国公募前の準備として、ホームページのリニューアルや都市へのPR活動など、情報発信に取り組んだ。			
外部評価	A	評価委員意見	本町 1 校の高校で、進路希望も増え事業の成果も上がっている。また、存続を目指しての大切な事業。続けての推進を望む。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

・総合支援事業

事業の目的内容

県立加計高等学校のさらなる進学率・就職率の向上のために、総合支援事業に要する経費に対し補助金を交付する。

総合支援事業：先進地視察、射撃部支援、進路対策講座（公営塾）授業

事業の成果

平成26年度の公営塾参加者の進学実績は国公立大学4名、私立大学7名、専門学校等10名、公務員試験合格1名で、進学者数は昨年度より増加している。

歳出決算額 6,324,800円

（7）奨学金貸付事業

事業の目的内容

高等学校、専門学校及び大学に進学を希望するが、経済的な理由から修学が困難な者に対して奨学金を貸し付ける。

平成 26 年度の新規貸付者は、高等専門学校 1 人、専門学校 4 名、大学 4 人の計 9 人であった。

返還人数は、高校 4 人、大学・専門学校 38 人の計 42 人であった。

ア 収支の状況（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

収入の部		支出の部	
費目	金額（円）	費目	金額（円）
返還金	5,686,750	貸付金	7,936,000
前年度繰越金	43,490,362	次年度へ繰越金	41,332,595
寄附金	50,000		
利子	41,483		
計	49,268,595	計	49,268,595

イ 貸付状況（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

区分	貸付者数（人）			貸付額（円）
	大・専	高	計	
26 年度新規貸付	8	1	9	4,192,000
在学貸付中の者	7	1	8	3,744,000

計	15	2	17	7,936,000
---	----	---	----	-----------

ウ 奨学基金会計の状況

区 分	金 額 (円)
貸 付 金	51,356,200
現 金	41,332,595
計	92,688,795

事業の成果

経済的な支援ができ、進学を望む者の希望がかなえられた。

評価

事業の評価	必要性 (町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性 (施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性 (事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度 (計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備 考	平成 26 年度は新規貸付者が 9 名と、例年より多かった。償還が滞りがちな者も数名あり、基金の適正な運営を図る必要がある。			
外部評価	B	評価委員意見	修学困難者に対し経済的な支援ができ進学を望む者の希望がかなえられたことは、貸付事業の成果である。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

2 小学校費・中学校費

(1) 小学校管理事業・中学校管理事業

・保健衛生

事業の目的内容

学校保健安全法に基づき、児童生徒等及び教職員の健康保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するため、毎年各学校で健康診断を実施する。

事業の成果と課題

ア 学校医等の委嘱 (学校医・5人、学校歯科医・4人、学校薬剤師・1人)

イ 健康診断等実施状況 (平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)

区 分	実 施 校	実 施 日	受診人数(人)	
定期健康診断	尿 (全員)	4 / 15 ~ 4 / 24	354	
	幼稚園 小学校 中学校	ぎょう虫 (幼・1 ~ 3 年)	4 / 15 ~ 4 / 24	103
		心電図 (小 1・中 1)	4 / 22	66
		眼科検診 (全員)	5 / 19・5 / 26	353

	耳鼻科検診（全員）	6 / 5・12・19	353
	内科検診（全員）	各校6月中に実施	353
	歯科検診（全員）	2回実施（春・秋）	356
修学旅行前健診	小学校6年生	修学旅行前に実施	37
	中学校2年生		54
筒賀駅伝前健診	加計中・筒賀中	駅伝前に参加者実施	32
就学前児童健康診断（内科・歯科）	4こども園・保育所 1幼稚園	10月実施	34

ウ 災害共済事務

災害共済給付制度は、「独立行政法人日本スポーツ振興センター法」に基づく国の公的制度で、学校の管理下における児童、生徒等の負傷、疾病、障害又は死亡に関して必要な給付を行うことにより、学校教育の円滑な実施に資することを目的としている。

町では、この独立行政法人「日本スポーツ振興センター」に児童・生徒等全員が加入している。

日本スポーツ振興センターに係る被害取扱い状況（平成26年4月～平成27年3月）

区 分	平成25年度		平成26年度	
	延べ給付数(件)	給付額(円)	延べ給付数(件)	給付額(円)
幼稚園	0	0	0	0
小学校	38	80,425	18	34,992
中学校	46	201,724	47	203,376

小学校では休憩時間中の捻挫・挫傷・打撲が多く、中学校では部活動中の骨折捻挫・挫傷・打撲が多かった。

引き続き学校での指導について注意を喚起したい。

・施設管理

事業の目的内容

児童生徒が安心・安全な教育活動を行うために、施設の保守・整備・修繕を行う。

ア 管理、点検等業務委託

・小学校

浄化槽保守点検委託（津浪小）	17,280円
浄化槽清掃業務委託（津浪小）	145,800円
自家用電気工作物保安管理業務委託（筒賀小）	54,800円
消防設備点検委託	571,307円
スクールバス運行委託（寺領・松原・猪山）	14,994,320円
プールろ過点検業務委託（修道小・津浪小*21,600*2回）	64,800円
庭木剪定・塗装落とし等業務委託	214,443円
筒賀小改修工事実施設計業務委託	10,260,000円
加計小建設設計業務委託	35,964,000円
加計小文書等整理移動業務委託	32,481円
加計小全景写真撮影委託	32,400円

計 62,351,631 円

・中学校

自家用電気工作物保安管理業務委託（加計中・筒賀中）	352,200 円
消防設備点検委託	601,206 円
加計中スクールバス運行業務委託	7,012,160 円
加計中エレベーター・空調設備メンテナンス委託	588,000 円
加計中床面清掃委託	194,400 円
加計中学校ガラス清掃委託	160,920 円
庭木剪定業務	58,949 円
加計中体育館建設工事実施設計業務委託	6,693,840 円
筒賀中改修工事実施設計業務委託	9,180,000 円

計 24,841,675 円

イ 施設の整備状況（学校管理費）

< 修繕関係 >

・小学校

施設設備修繕	29 件	1,312,124 円
照明器具・ガラス修繕	9 件	280,865 円
教育備品等修繕	15 件	533,519 円
スクールバス車検・修繕	1 件	121,240 円
		計 2,247,748 円

・中学校

施設設備修繕	14 件	773,376 円
照明器具・ガラス修繕	2 件	58,644 円
教育備品等修繕	9 件	132,122 円
		計 966,142 円

・小学校工事関係

事業の目的内容

修道地区簡易水道給水開始に伴う修道小学校給水設備接続工事、殿賀小学校講堂前敷地整備工事、耐震化に伴う加計小学校建設工事（第1期分）を行った。

事業内容	今年度執行額（円）	備考
修道小給水設備	1,296,000	
殿賀小敷地整備	833,760	
加計小建設工事第1期分	109,728,000	
計	111,857,760	

・中学校工事関係

事業の目的内容

学校茶園行事（加計中）の中止に伴う地権者への返還のための原状復旧、筒賀中学校特別支援学級開設に伴う改修、筒賀中学校グラウンド照明設備工事を行った。

事業内容	今年度執行額（円）	備考
鮎ヶ平茶園除去整備	1,458,000	
筒賀中改修工事	1,980,000	
筒賀中グラウンド照明設備	31,320,000	
計	34,758,000	

(2) 小学校教育振興事業・中学校教育振興事業(決算書 P104~106)

・遠距離通学費補助 (平成26年4月~平成27年3月)

区分	学校名	対象者数(人)	補助額(円)
小学校	修道小学校	10	108,000
	加計小学校	7	393,400
	計(a)	17	501,400
中学校	加計中学校	15	375,540
	戸河内中学校	17	142,800
	計(b)	32	518,340
合計		49	1,019,740

自転車通学者も含む

・特色ある学校づくり推進事業補助金

事業の目的内容

各学校が独自性のある事業展開が実施できるように活動費補助を行い、もみじプラン21を推進した。

【小学校】

(単位:円)

学校名	金額	事業テーマ
修道小学校	136,000	ふるさとを愛し、母校に誇りを持つ児童の育成 (理科、茶道、合唱講師招聘)
加計小学校	400,000	自己有用感が高まる加計小教育の創造 (授業研究、マーチング指導講師招聘) 協調学習に係る推進担当教諭旅費
津浪小学校	81,000	生き生きと表現できる児童の育成 (オペレッタ講師招聘)
殿賀小学校	166,000	環境・未来・故郷~思考力・表現力、豊かな心の育成、 地域に誇りを持つ活動~ (田楽の継承、絵本作り・科学画講師招聘)
筒賀小学校	83,000	「郷土」を大切に、「知・徳・体の調和のとれた豊かな 人間性」と「社会性」を身につけた児童の育成 (古代米・森林セラピー・陶芸講師招聘、緑化活動)
上殿小学校	76,000	魅力ある上殿小学校づくり(表現力の向上、心豊かな児童 の育成) (図工・書道講師招聘、山ゆり活動)
戸河内小学校	150,000	自信と安心をはぐくみ、意欲を持った子どもを育てる教 育活動の創造 (道徳教育・太鼓指導・縄跳び指導講師招聘)
合計(c)	1,092,000	

【中学校】

(単位:円)

学校名	金額	事業テーマ
加計中学校	208,000	生徒が生き生きと主体的に学び合う教育活動の推進 (キャリア教育、ピアサポート、合唱等講師招聘、) 協調学習に係る推進担当教諭旅費

筒賀中学校	170,000	自立した生徒を育てる (キャリア教育・太鼓等指導・文化祭作品指導講師招聘) 協調学習に係る推進担当教諭旅費
戸河内中学校	473,000	自ら伸びる (キャリア教育・合唱・スキー指導講師招聘) 協調学習に係る推進担当教諭旅費
合 計(d)	851,000	

事業の成果

特色ある学校づくり補助金による外部講師の招聘や地域の方の協力により、各学校とも学校長の経営方針に基づいた特色ある学校経営及び教育研究推進に大いに成果があがるとともに、新しい学びプロジェクト事業（市町と東京大学による協調学習研究連携）に町内小中学校の推進教職員が参加をし、協調学習を主にした授業力向上に努めることができた。

・その他負担金及び補助金

町内全小中学校は、合同修学旅行をそれぞれ実施し、学校間の児童生徒の交流を深めることができ、団体行動による社会性の育成と同世代同士のコミュニケーション育成につながった。

また、新しい学びプロジェクト事業（市町と東京大学による協調学習研究連携）に、町内小中学校の推進教職員が参加し授業力向上に努めた。

(単位：円)

名 称		金 額	備 考
小 学 校	小学校修学旅行補助金（九州方面）	476,910	@12,000×37人 他
小学校計(e)		476,910	
中 学 校	筒賀駅伝大会	98,000	
	中学校修学旅行補助金（関西方面）	1,028,848	@18,000×54人 他
	第36回中国中学校スキー選手権大会	20,000	島根県飯南町
	第46回広島県中学校スキー選手権大会	1,800	芸北国際
	第63回広島県中学校総合体育大会スキーの部	33,450	県民の森
中学校計(f)		1,182,098	
小学校費補助金合計(a)+(c)+(e)		2,070,310	
中学校費補助金合計(b)+(d)+(f)		2,551,438	

評価

事 業 の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）				

	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	協調学習の推進により、教員の授業力も向上してきている。			
外部評価	A	評価委員意見	各校が独自性のある事業展開をして成果があった。保護者・地域とともに学校の特性を活かした活動ができ、大変有効である。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する	単年度で終了

(3) 就学援助事業

事業の目的内容

経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して、国の制度に則り、学用品や給食費など必要な援助を行った。

事業の成果

援助が必要な児童生徒に対して、経済的負担を軽減することができた。

歳出決算額

ア 準要保護児童生徒就学援助費に係る支給状況（平成26年4月～平成27年3月）

区分	対象者数			支給額（円）			備考
	小	中	計	小学校	中学校	計	
学用品費等	40	16	56	526,093	352,640	878,733	
修学旅行費	7	3	10	98,350	90,297	188,647	
校外活動費	2	1	3	1,920	4,120	6,040	
新入学学用品費	4	4	8	81,880	164,850	246,730	
給食費	40	17	57	1,872,830	906,786	2,779,616	
医療費	6	0	6	7,000	0	7,000	
計(a)				2,588,073	1,518,693	4,106,766	

イ 特別支援就学奨励費補助金に係る支給状況（平成26年4月～平成27年3月）

区分	対象者数			支給額（円）			備考 （円）
	小	中	計	小学校	中学校	計	
学用品費等	1	2	3	13,650	49,100	62,750	国庫補助額 小学校 23,600円
校外活動費等	0	2	2	0	6,430	6,430	
新入学学用品費	0	0	0	0	0	0	
給食費	1	2	3	47,520	107,016	154,536	中学校 35,400円
計(b)				61,170	162,546	223,716	
扶助費合計(a)+(b)				2,649,243	1,681,239	4,330,482	

評価

事業の 評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考				
外部評価	B	評価委員意見	安心して就学できる経済的な支援事業を今後も継続して欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(4) 「山・海・島」体験活動“ひろしま全県展開プロジェクト”(県補助事業)

事業の目的内容

日常とは異なる環境での生活を体験し、児童の自立心や主体性などを育てるとともに体験先の地域の方々や学校との交流を通して、コミュニケーション能力など人間関係を形成する力を育てることにより、児童の豊かな心を育成すること目的とする。

推進校として町内7小学校すべてが県の指定を受け、加計小・戸河内小は単独で、残る5校は合同で3泊4日の宿泊体験を実施した。

加計小は、ファンファーレバンドの練習を中心にしながら仲間と協力する体験、比治山大学の学生たちと交流する体験、自然に親しむ体験を共有することで参加児童が共通の関心・課題を持ち、仲間意識と共に自己有用感を高めることを目指して実施した。

戸河内小、合同5校は国立青少年交流の家で、海辺の生物観察やカッター研修などを行い、家を離れて集団生活をするを通して「規範意識と協調性」をさらに高めることを目指して実施した。

事業の成果と課題

ア 成果

体験活動に関わる児童アンケートの結果、「自己有用感」「他者理解」について向上が見られた。

また、自分たちでやりきることにより「自立心」「主体性」が、そして集団生活により「仲間との連帯感」「コミュニケーション能力」や「社会性」が向上した。これらは、多くの児童にとって4日間の集団活動を通して、互いに自分の考えや思いを伝え、交流することや暑い中でも自らを律し集団として高まること、そして感謝や思いやりの気持ちの大切さを体感できた結果の表れだと考えられる。

また、「地域貢献」「郷土愛」の項目も大きく伸びている。様々な体験活動を通して数多くの発見があったことや、自らが計画したことを実践できたことが自信につながったと考える。

イ 課題

体験活動で体験し学習したことを、日常生活で継続・発展させ生かしてしていけるような工夫・手立てを継続していくことが必要である。

今年度は町内すべての学校が3泊4日で実施している。今後は経費の問題、宿泊場所の問題など、県内全小学校が3泊4日で実施をすることになると新たな問題も発生してくる。

地元の宿泊施設と江田島青少年交流の家とを隔年で実施していくなど、長期的な見通しを持って取組を進めていきたい。

平成27年度は加計小学校が単独で、他の6校は合同での実施を予定している。

歳出決算額 686,304円（県補助費320,000円）

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	引き続きプログラムの改善と日常生活への一般化を継続して取り組んでいく必要がある。			
外部評価	B	評価委員意見	様々な体験学習ができ成果が得られた。集団活動を通して、社会性を培うことのできる事業で今後も継続を望む。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

3 寄宿舍管理費

(1) 寄宿舍管理運営事業

事業の目的内容

戸河内中学校寄宿舍では、生徒の規律ある充実した生活や保護者の安心と信頼の確保を図るため、交流行事や寄宿生活の公開等の取り組みなど行っている。

・利用状況（単位：人）

年度	寮生数	内訳
25年度	5	男2 女3
26年度	4	男2 女2
増減	1	

事業の成果と課題

成果として少人数ながらも規則正しい生活により、安心安全な学校生活を送ることができた。

歳入歳出決算額

歳入
 寄宿舍居住費 353,214 円 (@7,500 円 / 月)
 うち減免対象 (1 名) @3,750 円 / 月
 国庫補助金 546,000 円 (国庫補助対象)
 歳出
 寄宿舍生徒通学費補助 (4 名) 83,200 円
 賄材料・光熱水費・燃料費 1,534,579 円
 その他・賃金等 1,231,128 円
 評価

事業の評価	必要性 (町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性 (施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性 (事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度 (計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	冬季通学が可能となり利用希望者がいないといったことから、平成 27 年度より休寮とした。			
外部評価	B	評価委員意見	生徒の規律ある成果、寄宿生活の公開等の取組みが成果を上げている。H27 年度より休寮となるが今後の必要性を検討されたい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

4 幼稚園費

(1) 幼稚園管理事業

事業の目的内容

幼稚園教育は、幼稚園指導要領に沿って適切な教育課程を計画し実施してきた。

事業の成果と課題

幼稚園が一園となったことに伴う町内保育所との連携強化による、年齢別交流実施による幼児教育の充実に向けた取り組みを行った。

豊かな創造力や、小学校入学時における学校生活がスムーズに行える力をつけることができた。

ア 利用状況

・園別園児数及び教職員数 (平成 26 年 5 月 1 日現在、単位: 人)

区分	戸河内
赤組(3 歳児)	5
黄組(4 歳児)	4
青組(5 歳児)	0
園児数計	9

前年度園児数	7
前年度比較	2
園長	1
教諭	2(1)
職員数計	3

園長は、小学校長が兼務()はうち臨時教諭

歳入歳出決算額

平成 23 年度から、若者定住施策の一環と少子化対策に資するための政策として、町内未就学児の保育料及び幼稚園授業料の減免政策により、満 18 歳未満の子を扶養する世帯の第 2 子は半額、第 3 子以降は無料としていた。

平成 25 年度から第 2 子以降無料となり、幼稚園授業料の徴収は以下のようになった。

歳入

区 分	金 額 (円)	備 考
幼稚園授業料	314,000 円	第 1 子 5 人、第 2 子 2 人、第 3 子以降 2 人

うち減免対象(2名) @3,900 円/月

歳出(負担金及び補助金)

区 分	金 額 (円)
広島県国公立幼稚園連盟会費	6,850
遠距離通園費補助	60,500
合 計	67,350

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備 考	平成 26 年度は、戸河内地区外からの入園があった。隣接する小学校との連携によりスムーズな就学につながっている。			
外部評価	B	評価委員意見	園児が減少する中、認定こども園への移行(幼稚園型・幼保連携型)の検討など、幼稚園の有り方・模索が必要。就学前教育充実のため、より高い取組みを期待したい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

5 保健体育費

(1) 共同調理場費

事業の目的内容

安芸太田町学校給食共同調理場は、加計学校給食共同調理場と筒賀学校給食共同調理場及び、戸河内学校給食共同調理場があり、安心・安全な完全給食を提供している。

加計学校給食共同調理場

職 員	場長 1人、栄養士 1人、調理員 正職2人、臨時5人(1人2時間勤務) 運転手(臨時)3人 計12人			
学 校 給 食 (職員数は臨時・非常勤含む)				
小学校	児童数	職員数	合 計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童数 113人 ・ 生徒数 68人 ・ 職員数 48人 <li style="text-align: right;">計 229人
修 道	9	6	15	
加 計	76	14	90	
津 浪	10	5	15	
殿 賀	18	7	25	
中学校	生徒数	職員数	合 計	
加 計	68	16	84	
保育所・認定こども園 (職員数は臨時・非常勤含む)				
保育所	3歳児未満	3歳児以上	職員数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳児未満 15人 ・ 3歳児以上 43人 ・ 職員数 18人 <li style="text-align: right;">計 76人
修 道	6	5	5	
認定こども園	3歳児未満	3歳児以上	職員数	
あさひ	9	38	13	

筒賀学校給食共同調理場

職 員	場長(兼任)1人、栄養士 1人(兼任筒賀小学校栄養教諭) 調理員 正職2人、運転手(臨時)2人 計6人			
学 校 給 食 (職員は臨時・非常勤含む)				
小学校	児童数	職員数	合 計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童数 36人 ・ 生徒数 13人 ・ 職員数 28人 <li style="text-align: right;">計 77人
筒 賀	24	10	34	
上 殿	12	7	19	
中学校	生徒数	職員数	合 計	
筒 賀	13	11	24	

平成22年度より筒賀小学校に栄養教諭が配置され、筒賀学校給食共同調理場栄養士兼務となった。

戸河内学校給食共同調理場

職 員	場長（兼任）1人、栄養士 1人、調理員 正職2人、臨時1人、運転手（臨時）2人 計7人		
学 校 給 食（職員は臨時・非常勤含む）			
幼稚園	園児数	職員数	合 計
戸河内	9	2	11
小学校	児童数	職員数	合 計
戸河内	61	13	74
中学校	生徒数	職員数	合 計
戸河内	56	13	69
・園児数 9人 ・児童数 61人 ・生徒数 56人 ・職員数 28人 計 154人			

事業の成果と課題

学校給食が共同調理場化に統一されたことにより、栄養教諭・栄養士との連携もスムーズになり、食育の推進とともに安心・安全な給食を各学校等へ提供することができている。

給食費については、現年度分、過年度分ともに引き続き徴収の強化を行っていく。
 学校給食費徴収状況

	年度	調定額（円）	収入済額（円）	収入未済額（円）	未納数
現年度分	26年度	28,881,176	28,725,231	155,945	8
過年度分	20年度	6,960	0	6,960	1
	21年度	50,080	0	50,080	1
	25年度	130,598	130,598	0	0
	計	187,638	130,598	57,040	2
合 計		29,068,814	28,855,829	212,985	10

収納率 現年度分 99.46%（対前年比 0.11%減）

過年度分 69.60%（対前年比 2.31%増）

評価

事業 の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
十分できている	できている	あまりできていない	できていない	
備 考	衛生管理の徹底により安心安全な給食の提供を実施し、食育の推進にも寄与していきたい。			

外部評価	A	評価委員意見	安心・安全な給食をこれからも願います。 食育の推進、安心・安全な給食の提供は大切であり、 給食費の徴収にも努力されたい。
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了		

6 学校適正配置について

安芸太田町教育委員会が平成 25 年 10 月 30 日に決定した「安芸太田町学校適正配置基本方針」について、議会の「学校適正配置計画調査特別委員会」において、およそ 1 年間議論され、方向性を示した「調査報告書」が平成 26 年 9 月 30 日に提出された。

調査報告書の内容について、概要は下記のとおり。

「一部修正」に関する議論の方向性

戸河内小学校を現在地で建て替える。

戸河内小学校は耐震化対応とする。

小中一貫校の整備

中学校跡に戸河内小学校を新築し、将来、山村留学開設をめざす。

町では、提出された「特別委員会調査報告書」における「一部修正」に関する議論の方向性における 4 案について、教育委員会議及び役場検討委員会で協議した。

協議結果として、基本方針策定後に実施した耐力度調査の結果において、体育館が新築の補助要件に適合せず、建築費を単独町費で賄うこととなり、財政面において課題があるため、「(仮)安芸太田北小学校(戸河内小学校)は、現在地において小学校校舎は新築、体育館は耐震改修とする」一部修正が、児童の安心・安全、快適な教育環境の向上、財政面への配慮等において最も適切と判断した。

この一部修正に基づき、PTA や地域へ説明会を行った。

なお、平成 27 年 2 月 18 日に修道小学校の統合について、安野振興会、修道振興会、修道小学校 P T A において、平成 28 年 4 月 1 日で加計小学校区への統合合意がされた。

津浪小学校についても、平成 27 年 2 月 20 日に統合対策委員会で平成 28 年 4 月 1 日での加計小学校区への統合合意がされた。

さらに殿賀小学校統合対策委員会において、平成 27 年 3 月 30 日付けで(仮)安芸太田東小学校への統合の報告書が提出された。

(1) 学校適正配置検討委員会

構成 町長、副町長、教育長ほかプロジェクトメンバー

日時	協議事項
4 月 11 日	耐震・耐力度調査結果について 補助とスケジュールについて 適正配置懇話会の状況について
5 月 8 日	適正配置計画スケジュールについて 学校適正配置調査特別委員会について 統合後の予算について 懇話会について

6月13日	学校適正配置調査特別委員会への説明について ・耐震度調査結果 ・予算審査特別委員会の意見を踏まえて ・設計・工事スケジュールについて
6月23日	加計小設計に関する協議
6月24日	加計小・中設計業務について
7月23日	一部修正協議
7月28日	学校適正配置調査特別委員会について ・プロポーザル業者選定結果等について ・加計小校舎・加計中体育館工事スケジュール ・プロジェクト会議開催状況について
7月29日	加計小校舎プロポーザル実施
8月19日	特別委員長からの質問 一部修正、タイムスケジュール、工事と予算について
9月3日	学校適正配置基本方針一部修正について
10月8日	学校適正配置基本方針一部修正について
10月10日	学校適正配置基本方針一部修正について
10月13日	学校適正配置基本方針一部修正について
12月18日	補正予算について 加計小校舎建設工事・加計中体育館建設工事・筒賀中夜間照明工事 戸河内小校舎改築、体育館改修スケジュール
2月25日	学校適正配置の上殿・戸河内地区について 情報公開請求について
3月2日	戸河内連合の会事前協議
3月5日	加計小校舎建設工事再公告について
3月24日	3月補正予算について 筒賀小体育館工事等

(2) 学校適正配置プロジェクト会議

構成 総務課長、地域づくり課長、児童育成課長、建設課長、加計支所長、
筒賀支所長、総務課課長補佐(財政担当)、教育次長、課長補佐

日時	協議事項
4月9日	予算審査特別委員会委員長報告と設計委託について 補助とスケジュールについて 適正配置懇話会の状況について
4月24日	適正配置計画スケジュールについて スクールバス・放課後対策等について
5月26日	県との協議結果について 津浪小懇話会について 平成26年度工事スケジュールについて 上殿地域・PTAからの要望について 議会への説明について
8月11日	加計小設計に関する協議

1月7日	平成27年度国の予算状況について 筒賀小・中改修補正予算計上について 戸河内小プロポーザルについて
------	---

(3) 学校適正配置計画調査特別委員会

構成 安芸太田町議会議員 12名

4月16日	(全員協議会)
6月19日	
7月1日	(正副委員長協議)
8月4日	(正副委員長協議)
8月5日	
9月5日	(正副委員長協議)
9月17日	
10月14日	(全員協議会)
12月2日	
12月24日	(全員協議会)
1月21日	(全員協議会)
2月20日	(全員協議会)

(4) 学校適正配置懇話会開催状況

平成26年4月～平成27年3月

日時	対象PTA等	人数	備考
4月30日	戸河内小PTA説明会	17	基本方針について3回目
5月15日	自治振興会 筒賀支部	8	
5月17日	修道小学校PTA懇話会	25	スクールバス等について
5月19日	自治振興会 戸河内支部	20	
5月20日	自治振興会 加計支部	14	
5月30日	津浪小学校懇話会	23	スクールバス等について
7月4日	加計小PTA説明会	40	加計小学校の基本設計・実施設計プロポーザルについて
7月16日	津浪小PTA説明会	8	
7月16日	筒賀小PTA説明会	16	
7月17日	戸河内中PTA説明会	18	
7月22日	加計中	21	耐震説明会
7月23日	筒賀中	14	耐震説明会
7月29日	戸河内小	6	耐震説明会
8月20日	修道地区	18	耐震説明会
10月8日	修道地区	13	PTA・地域との協議
10月25日	町内PTA会長会議	10	基本方針一部修正説明

10月29日	自治振興会会長会議	34	基本方針一部修正説明
11月6日	津浪小学校PTA説明会	6	基本方針一部修正説明
11月11日	上殿地区一部修正説明会	36	基本方針一部修正説明
11月12日	修道地区懇話会	12	基本方針一部修正説明
11月18日	筒賀地区懇話会	13	基本方針一部修正説明
11月24日	殿賀小説明会	22	基本方針一部修正説明
11月28日	上殿地区説明会	35	基本方針一部修正説明
12月1日	津浪地区説明会	31	基本方針一部修正説明
12月16日	戸河内小中説明会	36	基本方針一部修正説明
1月20日	上殿地域説明会	29	基本方針一部修正説明
2月4日	修道小学校説明会	12	基本方針一部修正説明
2月5日	殿賀対策委員会	5	統合意向確認
2月27日	修道小PTA	4	統合意向確認
3月16日	加計小PTA	6	統合意向確認

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	（歳出がないため評価なし）			
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
		十分できている	できている	あまりできていない
備考	基本方針説明、耐震説明会等地域に出向き協議を重ねた結果、東部地区については、基本計画どおり平成28年統合となる理解を得られたが、西部地区については、依然一部地域に反対があり、引き続き関係者へ説明を行う必要がある。			
外部評価	B	評価委員意見	評価は難しい。いろいろと精力的に動かれている様子はうかがえる。基本方針に沿って進められたい。できる限り住民の意見が取り入れられる適正配置として欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

教育委員会 生涯学習課

1 社会教育費

(1) 社会教育総務管理事業

事業の目的内容

社会教育の推進を図るため、各種団体への負担金・補助金の支払を行う。

社会教育関係負担金

名 称	金額(円)	備 考
広島県社会教育委員連絡協議会会費	25,000	
けんみん文化祭ひろしま'14 開催負担金	95,770	
広島県公民館連合会負担金	76,900	
筒賀東区分館テレビ共同受信施設組合会費	2,400	
広島県公民館大会参加負担金	10,500	
合 計	210,570	

社会教育関係補助金

名 称	金額(円)	備 考
安芸太田町女性連合会事業補助金	1,300,000	
安芸太田町子ども会連合会事業補助金	256,000	
安芸太田町 P T A 連合会事業補助金	431,000	
青少年育成安芸太田町民会議事業補助金	731,000	
安芸太田町文化団体連合会事業補助金	384,000	
合 計	3,102,000	

事業の成果と課題

各種団体への活動を支援することで、団体の活発な事業展開が図られた。

歳出決算額 12,144,480 円

評価

事業の 評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備 考	各種団体ともに活発な活動が行われており、地域活性化にも寄与している。			
外部評価	B	評価委員意見	各種団体が活発に事業展開できるよう支援することで、そのことが地域活性化につながっており、成果も上がってきている。	

事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了
--------	------------------------	-------------------------	-----------------------

(2) 社会教育施設管理事業

事業の目的内容

社会教育施設の運営維持のため保守・整備・修繕を行う。

施設名	金額(円)	備考
戸河内ふれあいセンター	13,142,610	賃金・需用費・通信運搬費・委託料 他
筒賀公民館	563,649	需用費・通信運搬費 他
筒賀公民館東区分館	188,635	消耗品・電話料・施設管理委託料 他
温井文化センター	231,694	施設管理・浄化槽管理委託 他
戸河内分室	162,379	コピー機保守管理委託料 他
香南文化センター	310,259	指定管理・建物共済・備品購入等

事業の成果と課題

施設の管理について、施設老朽化による修繕の増加が予想される。指定管理制度導入についても検討する。

歳出決算額 14,661,039 円

(3) 町村史管理事業

事業の目的内容

町村史の販売に係る郵送料。

事業の成果と課題

販売に関して、一括購入者への割引制度の導入等の販売促進を行っているが、平成24年度から町ホームページ・バナーで広告宣伝を実施しており、今後ともより一層の販売促進を図る。

町村史販売等の状況

加計町史

発行部数 (冊)	25年度末 在庫数(冊)	26年度出庫状況(冊)			26年度末 在庫数(冊)
		販売	寄贈	交換	
6,600	2,973	16	0	0	2,957

筒賀村史

発行部数 (冊)	25年度末 在庫数(冊)	26年度出庫状況(冊)		26年度末 在庫数(冊)
		販売	寄贈	
3,600	1,097	3	0	1,094

戸河内町史

発行部数 (冊)	25年度末 在庫数(冊)	26年度出庫状況(冊)		26年度末 在庫数(冊)
		販売	寄贈	
4,500	1,368	6	0	1,362

(4) 文化財保護管理事業

事業の目的内容

指定文化財を含め貴重な財産である文化財の保存維持を図る。

事業の成果と課題

町指定候補である1件について調査を実施した。

歳出決算額 525,117円

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	町村史販売冊数は、H25年度に比べ倍増しているが引き続き、販売増に向けて努力していく必要あり。			
外部評価	B	評価委員意見	指定文化財の保存管理の方法が、検討されるころではないか。また、貴重な文化財であり十分な管理保存に努めていただきたい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(5) 生涯学習推進事業

・地域生涯学習センター（小学校廃校地域対象）

事業の目的内容

廃校となった小学校区を対象に地域生涯学習センターを開設した。

各地域の団体と連携し、講座や教室、スポーツ大会の開催、地域情報の提供等を実施し地域の活性化を促す。

事業の課題と課題

講座や教室、スポーツ大会の開催等で地域の活性化が図られた。

センター名	金額（円）	備考
松原地域生涯学習センター	65,851	報償費及び消耗品
寺領地域生涯学習センター	24,850	〃
二郷地域生涯学習センター	255,600	〃
合計	346,301	

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない

			い	
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	地域の生涯学習センターの拠点として運営されているが、適正配置が進む中、今後の運用方法も検討していく必要がある。			
外部評価	B	評価委員意見	生涯学習センターが地域の活性化につながる拠点として役割が果たせるよう、地域と運用方法を検討することが必要。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

・子ども会活動

事業の目的内容

連合会の事務局を教育委員会内に置き、町子ども会連合会としての主催活動を展開し、情報の交換・共有を図る。

事業の成果と課題

様々な事業を行う中で地域の子ども会活動を支援し、子どもたちに楽しむ場を提供できた。

子どもの減少により、子ども会を組織できなくなる地域が増えているが、町子ども会連合会を受け皿にして、町子ども会連合会主催活動には全ての子どもが参加できる体制をとっている。

ア 安芸太田町子ども会連合会活動の促進・支援

総会 年1回開催（5月13日）

役員会 年4回開催

イ 山村交流会

趣旨 海沿いに面する地域に住む町外の子どもたち（山口県熊毛郡上関町）との交流を図るとともに、お互いの子ども会活動の情報を交換しあう中で、更なる活動の活性化を進めて行く。

主催 安芸太田町子ども会連合会

上関町子ども会育成連絡協議会（山口県熊毛郡上関町）

日時 平成27年2月11日（水）

場所 恐羅漢スノーパーク

参加 安芸太田町9人

ウ 親子クリーンハイキング

趣旨 親子でハイキングをすることにより親子の絆を深めるとともに、ハイキングの際、ゴミを拾うなど美化活動を行なうことにより環境保全の意識、ボランティア精神の向上を高める。

主催 安芸太田町子ども会連合会

日時 平成26年7月12日（土）

場所 つつがライフル射撃場～小原大橋

参加 約 60 人

エ SOUND FESTA あきおおた

趣旨 安芸太田町内で活動している子ども主体の団体が集い、日ごろの活動成果を発揮し合う場をつくる。

地域の方々に見ていただくことで、更なる地域活性化を目指す。

子どもから大人まで、世代を超えた交流の場を目指す。

主催 安芸太田町子ども会連合会

日時 平成 26 年 12 月 13 日 (土)

場所 戸河内ふれあいセンター

参加 約 130 人

・ P T A 活動

事業の目的内容

安芸太田町 P T A 連合会 (以下町 P 連とする) の事務局を教育委員会内に置き、町 P 連としての主催活動を促進し情報交換・共有を図るとともに、各学校単位 P T A (以下「単 P」とする。) の活動を支援する。

事業の成果と課題

単 P の支援及び町 P 連会議を行うことにより、単 P 間の情報の共有ができ P T A 全体としての意向の方向付けができた。

ア 安芸太田町 P T A 連合会活動の促進・支援

総会 年 1 回開催 (5 月 8 日)

会長会議 年 1 回開催

県 P T A 全小・中学校 P T A 会長研修会参加

日本 P T A 全国研究大会参加

県 P T A 研究大会参加

日本 P T A 中国ブロック研究大会参加

全小・中学校母親代表研修会

イ 町 P T A 連合会研修会の開催 (健康づくり課との共催)

日時 平成 26 年 11 月 30 日 (日)

場所 戸河内ふれあいセンター

内容 映画「ツレがうつになりまして」の上映

来場者数 約 250 人

・ 青少年育成町民会議活動

事業の目的内容

町民会議の事務局を教育委員会内に置き、町民会議として主催活動を促進するとともに、情報交換・共有を図る。

事業の成果と課題

各種事業を行うことにより関係団体間の連携・情報交換ができ、地域全体で青少年を育てて行くという大きなつながりができた。

ア 青少年育成安芸太田町民会議活動の促進・支援

総会 年 1 回開催（7 月 16 日）

常任理事会 年 4 回開催

イ 立志式の開催

趣旨 成長過程にある安芸太田町内中学校 2 年生を激励するとともに、生徒自らが自立心をもって生きることを促し、心豊かでたくましく生きる生徒の育成を図る。

日時 平成 27 年 1 月 31 日（土）

場所 川・森・文化・交流センター やまびこホール

講師 ダンサー 前 恵治さん

対象者 町内中学 2 年生 55 人

ウ 青少年育成安芸太田町民会議設立 10 周年記念行事の開催

趣旨 青少年育成安芸太田町民会議は、町村合併に併せて、旧 3 町村にあった青少年育成会議が合併し平成 17 年 4 月 1 日に設立した。その後、活動を続け平成 27 年の春で設立 10 周年を迎えた。それに伴い設立 10 周年を記念し、青少年育成安芸太田町民会議設立 10 周年記念大会を開催した。

日時 平成 27 年 3 月 14 日（土）

場所 戸河内ふれあいセンター

内容 式典、戦場カメラマン 渡部陽一さんの講演
広島県警察音楽隊の演奏会

来場者数 約 400 人

エ 第 9 回あきおおたゲームハイキングの開催

趣旨 町内の自然・文化・歴史を訪ね、地域の方から話を聴き、地域を知るとともに、郷土に誇りを持ち郷土を愛する心を育む。

また、多くの仲間との交流を通じて、協力することの大切さを学ぶとともに、友情の和を広げ世代の枠を超えた交流で、お互いを理解しあう。

主催 青少年育成安芸太田町民会議

日時 平成 27 年 3 月 26 日（木）

場所 加計地域

参加 80 人

オ 県民会議等の主催する行事等への参加

事業名	開催日	参加
青少年育成広島県民会議第 26 回総会（広島市）	6 月 18 日	2 人
青少年育成県民運動推進大会（広島市）	11 月 1 日	1 人

評価

事業の 評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していな	できていない

			い	
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	「青少年の健全育成」に大変、寄与している事業もあり今後も継続して支援していく。			
外部評価	B	評価委員意見	ふるさとを誇りに思う子どもたちのためにも大切な事業であり、育成に当たっては様々な事業の取組みが素晴らしい成果を上げている。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

・安芸太田町成人式

事業の目的内容

新成人の門出を祝福するとともに、大人の仲間入りをしたことによる義務と責任を再確認してもらうための事業である。

開催日時 平成 27 年 1 月 11 日（日） 13:30～

開催場所 川・森・文化・交流センター（やまびこホール）

対象者 平成 6 年 4 月 2 日～平成 7 年 4 月 1 日生まれ

対象人数 男性 44 人 女性 35 人 計 79 人

出席者数 男性 33 人 女性 25 人 計 58 人

記念行事 記念式典、記念講演

演題 「新成人へ贈る言葉」

講師 中重 勝さん

記念品 「写真立て」 温井工芸センター

事業の成果と課題

出席率が約 73.4%と高く、また講演により新成人としての自覚と責任について意識喚起が十分できたと思われる。

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
			い	
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	昨年度と同様に出席率が高く、今後も 20 歳の門出を祝う魅力な事業となるよう継続的に事業を展開していく。			

外部評価	A	評価委員意見	人生の節目である成人式をお祝いすることは重要である。出席者率も高く、若者の成人への自覚がうかがえる。
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了		

・公民館講座

名 称	金 額	備 考
そろばん教室	280,000 円	@7,000 円 × 40 回

事業の目的内容

そろばん教室を通して、現代の子どもたちに低下しがちな集中力、忍耐力、積極性を養う。

事業の成果と課題

受講者数 18 人であった。

毎月検定を行うことにより、よりレベルを上げて行くというチャレンジ精神が養われている。

名 称	金 額	備 考
カルチャー教室	1,488,360 円	講師料、講師交通費

事業の目的内容

都市部ではカルチャー講座は、様々なものが実施されていて意欲のある人が申し込んで受講しているが、安芸太田町ではたとえ意欲がある人がいても、交通手段等の事情により受講することが難しい。

そこで町が講師を招へいし、町民に対し安価で受講できるカルチャー講座を開講することにより、町民の文化に対する意識向上や生きがいづくり、日常の充実を図る。

楊名時健康太極拳、シルバーアクセサリー及びトールペイントの3つの講座を、3ヶ月を1つの期間として、3期（第1期：5月～7月、第2期：7月～10月、第3期10月～12月）実施した。

また、リンパマッサージは全2期実施した。

3月には短期講座も実施した。

事業の成果と課題

受講者数 134 人と昨年と比べ受講者数が増加した。町民の生きがいづくり、日常の充実、町民の交流が図られた。

名 称	金 額	備 考
パソコン教室	363,000 円	講師料、講師交通費

事業の目的内容

学校のパソコンを活用した教室を開催し、インターネットの利用促進とインターネットの活用による生きがいづくり等を目指す。

加計、筒賀、戸河内各1ヶ所あたり3回の講座を実施した。

事業の成果と課題

対象者を初心者向けとしたが受講者数 30 人と昨年に比べ微増し、インターネットやパソコンの利用促進、インターネットの活用による生きがいづくりが図られた。

評価

事業の評価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	引き続き、受講者のニーズを把握しながら講座内容を検討していく。			
外部評価	B	評価委員意見	教室・講座の必要性は高まっており、町内で安価で講座が受講できるので、交流・生きがいの場となっている。受講者のニーズに応えながら充実していくべき。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

・芸術文化推進事業

事業の目的内容

質の高い芸術文化に触れてもらうことにより、町民の芸術文化感覚を養う。

また、文化団体連合会の事務局を教育委員会に置き統括し、町民の芸術文化活動を発表する場を設けることにより、町民の日々の生きがいづくりを支援する。

事業の成果と課題

質の高い芸術文化は町民に感動を与え、また、町民の発表の場では素晴らしい演舞等の中に笑顔を生み出すことができた。

高齢化等による観客数の減少や、文化団体の出演団体数が減少している。加盟団体数も微減しており支部での活動が困難になりつつある。

ア 安芸太田町文化団体連合会活動の促進・支援

総会 年1回開催（7月22日）

幹事会 年1回開催

イ 文化団体連合会各支部の主な主催事業

（加計支部）

事業名	実施状況
総会	4月15日
ふれあい文芸・芸能発表会	5月24日～25日

（筒賀支部）

事業名	実施状況
総会	7月11日
文化活動発表会	11月15日

（戸河内支部）

事業名	実施状況
総会	4月23日
文化 芸能フェスティバル	11月8日～9日

- ウ 宝くじ文化公演「いっこく堂スーパーライブ」
 日時 平成26年10月24日(金)
 場所 戸河内ふれあいセンター メイプルホール
 出演 玉城 一石さん
 入場者数 452人

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	「宝くじ文化公演」は、前売り券が完売するなど、町内では人気がある事業となっている。			
外部評価	B	評価委員意見	宝くじ公演は、継続でお願いしたい。 また、文化活動の成果を発表する場を設けることは必要である。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

・人権関係

事業の目的内容

ア 地域人権教育支援事業

実施内容

回	日時	対象	内容	参加者
1	12月15日 (月)	津浪振興会	テーマ「普通の家庭から...今。」 講師：宍戸 心平さん	40人

イ 人権フェスタの開催

平成26年度は町・教育委員会の主催で開催した。各団体・機関が実施している人権イベントの連携と交流のネットワークを図り、お互いの活動を紹介し合い、情報を共有し、人的な交流を深め合うことを大切にするため、平成20年度から実施している。

日時 平成26年12月6日(土) 13:30～15:30

場所 川・森・文化・交流センター(1階やまびこホール)

- ・人権講演会 石井 苗子さん
- ・人権展：町内小学6年生の人権標語展示

(人権標語は町内小・中・高等学校、町内企業等所で展示)

ウ その他

広島県人権教育指導者養成研修会への参加

事業の成果と課題

地域の自治振興会を対象とした「地域人権教育支援」は、地域の自主的・主体的な取組として、1地区で実施した。

開催時期や時間帯などの要望は様々で、なるべく参加しやすいよう意向に添えるものにしていきたい。

人権週間・障害者週間と合わせ、平成26年度で7回目となる「人権フェスタ」を開催した。

女優・ヘルスケアカウンセラーの石井苗子さんによる「育てよう、一人一人の人権感覚」の講演や、修道小学校全校合唱・加計小学校ファンファーレバンド等を実施した。町内外から約100人の参加があり、多くの方との交流を深めるなかで人権の大切さを改めて確認できるイベントとなった。

歳出決算額 2,950,925円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	人権フェスタへは多くの方の参加があるが、「地域人権学習会」については、今後も参加者の輪が広がるように努力していく。			
外部評価	B	評価委員意見	人権講演会の参加者を増加させるためにはどうすればよいか。また、「地域人権学習支援事業」は、地域が主体的に取組めるよう工夫が必要。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する			
	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する			
	見直しのうえ、継続する 単年度で終了			

(6) 図書館運営事業

事業の目的内容

- ・図書館協議会開催

日時 平成27年2月27日(金)

議題 平成26年事業報告及び平成27年度事業計画について

- ・図書購入状況

	区分	26年購入	金額	備考
本館	蔵書	777冊	1,158,306円	総冊数 44,807冊
	雑誌	19種類	140,354円	総冊数 594冊

筒賀分室	蔵書	177冊	233,315円	総冊数 9,110冊
	雑誌	4種類	25,595円	総冊数 472冊
戸河内分室	蔵書	271冊	375,193円	総冊数 13,525冊
	雑誌	9種類	68,492円	総冊数 490冊
大型絵本・紙芝居		3点	5,616円	蔵書へ含む
視聴覚		20点	197,208円	総数 783点

・図書館利用状況

ア 開館日数	〔本館〕	282日
	〔筒賀分室〕	268日
	〔戸河内分室〕	293日

イ 貸出し冊数

区分		本館	筒賀分室	戸河内分室	移動図書館
貸出し冊数	一般書	9,548冊	1,418冊	3,653冊	1,501冊
	児童書	11,481冊	1,865冊	2,885冊	4,483冊
	雑誌	941冊	79冊	680冊	8冊
	視聴覚	1,544点	69点	595点	14点
	その他	12冊	0冊	0冊	0冊
	計	23,526冊	3,431冊	7,813冊	6,006冊

ウ 移動図書館やまびこ号

- ・毎月第3火・木・金曜日に町内23箇所を巡回
- ・利用状況 利用者数 2,027人

エ 昨年に引き続き司書2名体制で巡回活動を行った。

- ・小学校7校、中学校3校 絵本の読み聞かせ、図書室整理など
- ・幼稚園・保育園・児童センター6か所 絵本の読み聞かせ

事業の成果と課題

図書館での読書環境改善や、図書館利用の促進と子どもの読書を推進する取り組みとして、図書館外へ本を送り出す「移動図書館やまびこ号運行」や「司書による巡回活動」、「県立図書互助・教弘文庫」、「おひさま文庫(旧学校図書)」活動を定例行事等と合わせて展開し、多くの本に出会う機会と情報提供を行うことで利用増加を図った。成果として、貸出し冊数は対前年比を上回った。

歳出決算額 12,192,031円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	図書館司書が、積極的に学校等で読み聞かせ等を実施するなど、町民へ多くの本に出会う機会や情報提供を行なった。			

外部評価	B	評価委員意見	町民ニーズが増加の傾向は良い。年々、蔵書が増え本町の自慢できる施設になっている。 新刊図書などをもって購入して欲しい。
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了		

(7) 放課後子ども教室

事業の目的内容

放課後や長期休業日に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設けるもの。

地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

区 分		事 業 の 実 績 内 容	
1	子ども教室名	加計小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	加計小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立加計小学校	
4	実施日数	年間： 258 日	平日 202 日
			土曜日及び長期休 56 日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 22 人

区 分		事 業 の 実 績 内 容	
1	子ども教室名	修道小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	修道小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立修道小学校・修道活性化センター	
4	実施日数	年間： 239 日	平日 199 日
			長期休業日 40 日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 8 人

区 分		事 業 の 実 績 内 容	
1	子ども教室名	戸河内小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	戸河内小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立戸河内小学校	
4	実施日数	年間： 277 日	平日 200 日
			土曜日及び長期休業日 77 日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 18 人

区 分		事 業 の 実 績 内 容	
1	子ども教室名	津浪小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	津浪小学校区	

3	実施場所	安芸太田町立津浪小学校	
4	実施日数	年間： 38日	平日 0日
			長期休業日 38日
5	参加対象者(1日当たり)	対象：小学1年生～小学6年生	人数： 6人

事業の成果と課題

平成26年度も町内4小学校で事業を実施した。

加計小・戸河内小放課後子ども教室については土曜日も開校し、修道小学校子ども教室は保護者から要望があった、平日の開校を継続して22年度から行っている。

勉強やスポーツ・文化活動や長期休業日期间には地域住民との交流活動を行い、子どもたちの安全・安心な活動拠点づくりが図られた。

課題として、一部の教室ではスタッフが不足している状況があり、スタッフの確保に苦慮している。

補助事業	補助事業対象経費総額	補助金額(2/3)
放課後子ども教室推進事業	5,212,689円	3,475,000円

歳出決算額 7,418,046円

評価

事業の評価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	「子どもの安心・安全な居場所づくり」という観点では、この事業は大きく寄与しているが、教室によっては定員について課題あり。			
外部評価	A	評価委員意見	子どもの安心・安全な活動の場づくりとして、成果が上がっている。継続を希望する。 保護者が安心して仕事につける。	
事業の方向性	さらに重点化する 事業の縮小を検討する	現状のまま継続する 休止、廃止を検討する	見直しのうえ、継続する 単年度で終了	

2 保健体育総務費

(1) 保健体育総務管理事業

事業の目的内容

- ア スポーツ推進委員報酬 15人 493,000円
- イ 平成26年度 中国四国地区スポーツ推進委員研修会
日時 平成26年6月27日(土)～6月28日(日)
場所 岡山市(桃太郎アリーナ)
参加 3人
内容 講演・実技研修

- ウ 平成 26 年度 広島県総合マネジメント研修会
兼広島県スポーツ推進委員研究大会
日時 平成 26 年 7 月 12 日(土)～7 月 13 日(日)
場所 呉市(グリーンピアせとうち)
参加 3 人
内容 講演・情報交換
- エ 平成 26 年度 芸北地区スポーツ推進委員研修会
日時 平成 27 年 1 月 18 日(日)
場所 北広島町千代田運動公園体育館
参加 8 人
- オ 安芸太田町体育協会総会
日時 平成 26 年 5 月 29 日(金)
議題 ・平成 25 年度事業報告及び収支決算報告について
・平成 26 年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について
補助金 1,560,000 円
- カ 第 52 回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会
日時 平成 26 年 7 月 28 日(月)～31 日(木)
場所 つつがライフル射撃場
参加 44 都道府県 105 校 参加選手 532 人
宿泊者数 延 1,285 人(うち町内 延 885 人)事務局把握分
事業の成果と課題
スポーツ推進委員の研修参加によりスキルアップが図られた。
また、ライフル射撃大会を実施することで町内の宿泊業者、弁当業者、印刷、記念品業者、バス事業者等に経済波及効果が生まれた。
歳出決算額 6,255,750 円

全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会安芸太田町実行委員会会計収支報告

収 入 (単位：円)

項 目	金 額	備 考
スポーツ団体負担金	400,000	全国高等学校ライフル射撃部 400,000
町補助金	4,000,000	地域活性化センター助成金 4,000,000
参加料	1,542,000	団体 576,000 個人 966,000
雑 入	78,000	出店料 20,000 大学広告料 58,000 他
預金利息	193	
繰越金	0	
計	6,020,193	

支 出 (単位：円)

項 目	金 額	備 考
報償費	571,100	参加者記念品他

旅 費	124,850	技術員・役員等旅費
需用費	1,407,771	射撃競技用品消耗品・ポスター・パンフ印刷他
役務費	459,829	競技用具郵送他
使用料及び賃借料	2,699,568	送迎バス・テント他
食料費	49,063	役員用
雑 費	494,970	保険・交通警備員他
計	5,807,151	

収入 6,020,193 円 - 支出 5,807,151 円 = 213,042 円 次年度へ繰越し
評価

事業 の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していな い	できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備 考	全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会は、H18 年度からの継続開催となっている。全国規模の大会が本町で開催されることで地元加計高校ライフル部にも刺激を与えるとともに、町内への経済波及効果もあることから引き続き、各機関と連携を図る。			
外部評価	B	評価委員意見	ライフル射撃場施設の特徴を活かした大会は、多方面に波及効果がある。今後も継続開催を望む。子どもたちのためにも、ライフル射撃クラブを作って欲しい。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			

(2) 体育施設管理事業

事業の目的内容

体育施設管理事業は、町内の体育施設の維持管理、修繕等にあてられる経費である。

(単位：円)

施設	設置場所	支出額	備考
体育施設	加計体育館	6,793,200	指定管理委託料
	修道活性化センター	360,000	管理委託料
		937,896	保守点検・維持管理等
	坂根スポーツ広場	360,000	管理委託料
		384,872	保守点検・維持管理等
スポーツ広場	見入ヶ崎・温井・松原・杉の泊	250,000	管理委託料
学校体育施設	津浪小・修道小・加計小・殿賀小	120,000	管理委託料
町内プール	加計・温井・戸河内・筒賀・坂原・井仁・松原・猪山・上殿・寺領・平見谷	2,836,582	賃金・管理委託料等
		1,214,594	保守点検・維持管理等・水質検査、AEDレンタル等
		1,397,898	プール薬剤等
合計		14,655,042	

施設	設置場所	支出額	備考
体育施設	修道活性化センター	744,415	電気、上下水道、燃料
	坂根スポーツ広場	87,759	
スポーツ広場	見入ヶ崎・温井・黒峠・松原・至誠・筒賀ふれあい・筒賀多目的	340,099	
学校体育施設 夜間照明	加計中・戸河内中・津浪小・修道小・加計小・殿賀小・筒賀小・戸河内小・上殿小	984,592	電気
町内プール	加計・温井・戸河内・筒賀・松原・猪山・上殿・寺領・平見谷・井仁・坂原	1,839,534	電気、上下水道、燃料
光熱水費合計		4,168,467	

事業の成果と課題

近年すべての体育施設は老朽化しており、年々修繕費等の経費が増大している。
歳出決算額 25,068,578 円

ア 加計体育館利用状況

・年間利用状況

利用日数（日）	利用件数（件）	利用者のべ人数（人）
306	699	18,183

・種目別利用状況

種 目	利用団体 （団体）	利用件数 （件）	利用者のべ人数 （人）	利用料金 （円）
バレーボール	16	320	6,359	176,900
ビーチボールバレー	1	60	1,050	48,000
バドミントン	5	114	789	91,050
卓球	2	53	1,210	27,560
テニス	7	25	154	84,250
フットサル	3	48	1,398	172,800
サッカー	1	9	290	24,300
バスケットボール	3	5	96	22,900
その他	21	65	6,837	643,935
合 計	59	699	18,183	1,291,695

イ 戸河内ふれあいセンター利用状況

・年間利用状況

	メイプルホール			アリーナ		
	利用日数 （日）	利用件数 （件）	利用者のべ人数 （人）	利用日数 （日）	利用件数 （件）	利用者のべ人数 （人）
計	105	140	7,259	263	562	11,248

・種目別利用状況

種 目	利用団体 （団体）	利用件数 （件）	利用者のべ人数 （人）	利用料金 （円）
バレーボール	5	105	861	7,200
ビーチボールバレー	1	32	159	3,200
ソフトバレーボール	1	47	358	4,700
バドミントン	2	7	116	6,380
卓球	7	135	1,577	7,100
剣道	6	108	1,569	38,430
その他	35	128	6,608	274,129
小 計	57	562	11,248	341,139
メイプルホール	41	140	7,259	340,428
ロビー	1	1	35	0
小 計	42	141	7,259	340,428
合 計	99	703	18,507	681,567

(3) 社会体育振興事業

事業の目的内容

- ア 近郡ゲートボール大会
 日時 平成 26 年 9 月 6 日 (土)
 場所 坂根スポーツ広場
 参加 11 チーム
- イ 安芸太田町民グラウンドゴルフ大会
 中止
 日時 平成 26 年 6 月 22 日 (日)
 場所 深入山グラウンドゴルフ場
 参加者
- ウ 安芸太田町合併 10 周年記念町民運動会
 実施内容
 日時 平成 26 年 11 月 16 日 (日)
 場所 加計中学校グラウンド
 参加者 約 400 人

事業の成果と課題

安芸太田町合併 10 周年記念町民運動会は、子どもから大人まで幅広い年代の参加があり 6 競技を実施した。

競技を通じて地域の交流や健康づくりに大きく貢献した。

歳出決算額 1,633,923 円

評価

事業の評価	必要性 (町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	増加	横ばい	減少	かなり減少
	有効性 (施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	十分寄与する	概ね寄与する	あまり寄与していない	できていない
	経済・効率性 (事務効率化、コスト縮減しているか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
	目標達成度 (計画どおりに目標を達成できたか)			
	十分できている	できている	あまりできていない	できていない
備考	H26 年度は、合併記念事業として町民運動会を開催し多くの町民の参加があった。ただ、今後は社会体育施設老朽化などによる施設管理について課題あり。			
外部評価	B	評価委員意見	町民の幅広い年代の参加で成果はあったが、地域の関心が「今ひとつ」の感じがする。今後の課題と思われる。	
事業の方向性	さらに重点化する 現状のまま継続する 見直しのうえ、継続する 事業の縮小を検討する 休止、廃止を検討する 単年度で終了			